

第5回 函館市学校給食あり方検討会議（議事録）

1. 日 時

平成25年10月21日（月）15：30～17：00

2. 場 所

市役所本庁舎5階 教育委員室

3. 協議・説明事項

- (1) 函館市学校給食基本方針素案について
- (2) その他

4. 出席者

- ・工藤 勉 （市立潮光中学校校長）
- ・瀬川 要三 （市立南本通小学校校長）
- ・島森 佐知子（函館市PTA連合会前副会長）
- ・戸澤 裕美枝（市立戸井幼稚園園長）
- ・伊藤 綾子 （市立亀田中学校栄養教諭）
- ・保坂 静子 （学校法人野又学園函館短期大学専任講師）
- ・鶴喰 秀俊 （JA函館市亀田営農部長）
- ・佐藤 理恵子（公募委員／函館大妻高等学校教諭）

《事務局》小山みゆき（学校教育部長），平井尚子（生涯学習部次長）
加賀重仁（学校教育部教育指導課長），
阿部慶太（学校教育部保健給食課長），廣瀬貴久（保健給食課主査）
横濱明美（保健給食課主任技師）

5. 配付資料

- 函館市学校給食基本方針（素案）

議事録（要旨）

●函館市学校給食基本方針（素案）協議

◇函館市学校給食基本方針の内容について、加除、修正部分を事務局から説明

【島森委員】

- ・修正したことにより、内容が解りやすくなった。

【伊藤委員】

- ・食育の推進については、（函館市版の）食に関する指導要領を次年度作成する
と考えてよいのか。

【教育指導課長】

- ・学習指導要領は、指導内容の基本になっているものである。
- ・次年度は、モデル校を選定し、先進的な食育、給食のあり方について実践を積み重ねていく中で、よりよい指導計画を各学校で作成できるよう目指したい。
- ・また、今年度、栄養教諭を対象に初開催した食育指導の研修も継続したい。
- ・各学校の全体計画を具体的な実践に結びつけていきたい。

【伊藤委員】

- ・各学校で食に関する全体計画、年間指導計画は作成しているが、栄養教諭が作成している場合が多く、実際に活用されてる場面が少ない。
- ・栄養教諭は、1校1名配置ではないので、市教委の指導、管理職の理解により取り組みを進めるべきである。

【教育指導課長】

- ・各学校の実態を踏まえた計画をモデル校の実践を通して確実に進められるようにしていきたい。それには、栄養教諭の力が必要である。

【生涯学習部次長】

- ・学校給食を活用した食育の推進の中で、食育の推進については、学校教育全体で取り組むこととしている。

【工藤委員長】

- ・協議されている内容は、全て基本方針の中に含まれていることでよいか。

【戸澤委員】

- ・含まれているということよいと思うが、おいしい給食の推進にあたり、献立や食べやすさなどについて、実際に食べている子ども達、教職員や保護者が意見を述べたり、伝える場を設けてほしい。

【保健給食課長】

- ・保護者と給食についての意見のやり取りは、現状どのような場面があるのか。

【伊藤委員】

- ・試食会や学校評価等で保護者の意見は聞いている。
- ・また、学校給食衛生管理基準では、献立作成委員会を設け、栄養教諭等、保護者その他関係者の意見を尊重することとなっているが、函館市では各学校に設置されておらず、年2回の献立全体会議がこれに相当するものとなっている。

【保健給食課長】

- ・学校現場の声は日常的な教育活動の中で子ども達からの聞き取りや、市教委として、給食の評価を把握する必要もあると考える。
- ・部分的ではあるが、昨年度は給食に関するアンケートを行っている。
- ・管理職も実態を把握し、どう改善を進めていくかである。

【瀬川委員】

- ・保護者の意見は年数回の試食会で聞き取りはできる。
- ・日常的には、親学校と子学校では、連絡帳のやり取りで、学校対応している。
- ・味付け、量、食材等について、改善して欲しい内容は連絡帳等で伝え、改善してもらっている。

【保坂委員】

- ・学校勤務時には、毎日、教職員から給食についての意見をもらっていた。
- ・給食時間等の様子が、すぐに伝わってきていた。
- ・勤務校が文科省の指定を受けた時は、食を中心とした年間計画を作成し、実践した経験もある。
- ・給食モニター制をとり、学級から数名代表を決め、月1回程度、給食を試食してもらい給食についての意見交換をしていた。
- ・保護者が子ども達の配膳から食べるまでの様子を参観し、それを学級懇談会等で全体にフィードバックしてもらうこともあった。
- ・また子学校の保護者には、親学校の給食調理場を見学してもらったこともある。
- ・様々な取り組みの中で保護者に学校給食について知ってもらい、意見をもらうことで、給食内容に反映できる。

【工藤委員長】

- ・親子共同調理場間では、親学校と子学校の意思疎通が大切。
- ・日常的な子ども達や教職員の声を、親学校に伝え、意見を吸い上げてもらい、改善していけるよう連携を取らなければいけない。

【保坂委員】

- ・函館市の献立作成について、保護者の意見が反映できるようなシステムになっていない。各学校に献立作成委員会は設置されていないと思う。

【保健給食課長】

- ・各学校には設置されていないのか。今後、設置していくことなるのか。

【生涯学習部次長】

- ・このことは、基本方針の具体的な推進方法中、(2)おいしい給食の推進①おいし

い給食づくりに、「学校が家庭や地域と連携した献立の工夫」とあるので、今後に向けてどのような方法がとれるのか検討したい。

【保坂委員】

- ・栄養教育研究会では、毎年、学校給食について、保護者や地域にPR活動をしている。函館市からも更なる協力が得られればと思う。

【工藤委員長】

- ・委員からの様々な意見は、おいしい給食の推進、学校給食を活用した食育の推進を具現化していく内容であるとおさえない。
- ・他の委員の意見もお聞きしたい。

【佐藤委員】

- ・修正案は、協議内容が反映され分かりやすくなっている。

【鶴喰委員】

- ・専門的なことはよく解らないが、よいと思う。

【生涯学習部次長】

- ・食育の推進の中に、生産者等の協力による食育の実施を新たに盛りこんでいるが、どのような連携方法があるか。

【保健給食課長】

- ・具体的イメージとしては、農閑期に学校へ来てもらい、生産者に生の声を話してもらったり、可能であれば、農繁期に畑に子ども達を連れて行き収穫作業を体験させてもらいたい。
- ・また、学校菜園等の協力もお願いしたい。
- ・生産者や農協の方の協力による食育は、栄養教諭から要望もある。

【鶴喰委員】

- ・これまでの経験の中では、子ども達や先生方が農協に見学学習に来たこともあるし、畑の見学もあった。
- ・時期的には大変な部分もあるが、検討の余地はあると思う。

【工藤委員長】

- ・今後、具体的なアイデアを出してもらいながら、協力体制をつくりあげていきたい。

【瀬川委員】

- ・給食の回数について、食育、給食費、衛生管理等様々な条件があるかと思うが、授業日数からすると、給食日数は足りないのではないか。
- ・給食回数を見直す時期にきているのではないか。

【工藤委員長】

- ・中学3年生が特に足りない。

【生涯学習部次長】

- ・中学校長会から非公式の場で話を聞いているが、今後、校長会の中で協議していただき、要望として承りたいと考えている。

【工藤委員長】

- ・函館市学校給食基本方針は、素案のとおりでよいか。

【各委員】

- ・了承した。

【工藤委員長】

- ・本会議をもって素案を了承することとする。
- ・今後の日程について事務局から説明をお願いしたい。

【保健給食課長】

- ・今後、市議会や、小、中校長会に説明を行ったうえ、市民等を対象にしたパブリックコメントを実施する。
- ・基本方針は、各意見を集約し、教育委員会として成案化する。

【学校教育部長】

- ・8月から始まり、今回の5回目まで精力的に議論、検討いただき、まずは函館市学校給食基本方針の素案がまとまったことに感謝申し上げます。
- ・基本方針がゴールではないので、具体的な取り組みに繋がるよう努めたい。
- ・今後も委員の皆様とともに学校給食の充実を図るために、引き続きご意見をいただきたい。